

# その着こなしに理由アリ

文／中野香織

## 第1回

3つボタンのソリッドなスーツに白シャツという無難な着こなしはクリーンなイメージ。レジメンタイムも、アメリカでなら余計な批判を浴びることなく、好印象  
Photo by EPS/AFL0



**ト** レードマークの長い髪を、ばつさり切ると。

「髪が命」の女の場合、決意表明であることが多い。失った恋を忘れて新しい人生を切り開こうとか、新しいキャリアに邁進しようとか。ま、時にはただ「気分を変えたくて」という場合もあるが、それも含めて、ともかくもばつさり切られた髪は「生まれ変わった私」の強いビジュアルメッセージとなる。

**男** の場合、どうなのか。

例えば、ニューヨーク・ヤンキースに入団した、元阪神の井川慶投手である。昨年12月8日、入団会見のためニューヨークへ渡る直前の成田空港でメディアの注目を集めたのが、すっきりと短く整えられた髪と、きれいにヒゲが剃られた顔。服装も、シンプルなジーンズにパールのベロアジャケットとこれまでの井川選手の服装と比べれば、のレベルとはいえず、十分「エレガント」。本番の会見では、堂々とした姿勢である。阪神時代には、「落ち武者」と書かれるほどのボサボサ長髪と無精ヒゲをトレードマークにしていたのに、ヤンキースに入団するとなつて、この変身ぶり。

井川選手をこれだけ変えたのは、

いったい何なのか。  
紳士球団ニューヨーク・ヤンキースの厳しい規律なのだろうか？

球団広報兼環太平洋担当、広岡勲さんに恐る恐るお話を伺ったところ、驚きのお答えが返ってきたのである。「確かに、長髪はダメとか、あごヒゲはダメとか、ヤンキースには明文化された厳格なドレスコードはいくつかあります。でもそれはあくまでグラウンドにおいて、ですよ。普段の私服に関する決まりなんて、いっさいありません。ここは自由の国、アメリカですから、私服の個性までコントロールするようなことはしていません」

ええっ!? では、井川選手は自発的に髪を切ってきた、ということですか？  
「そうです。私はむしろ、あの長髪は井川選手の個性だから」と球団側は説明するつもりでございました。選手の個性は尊重しておりますので、でも、井川選手自ら、髪をばつさりと切つて現れたんですよ」

ヤンキース側からは特に何も指示しなかった、と？  
「ええ。面白いことに、ヤンキースに入団が決まる選手は、みんな自発的にそうしてくるんですよ。例えば、2005年にボストン・レッドソックスから移ってきたジョニー・デーモン (Johnny Damon)。この人はレッドソックス時代にはヒゲがボーボーで、＼キリストの再来だの、原始人、だのと呼ばれていたのに、ヤンキースへ移籍することになって、長髪もヒゲもすっきり切り落とし、別人のように変貌しました」

ヤンキースがアメリカの球団の中でも特別な存在だから…ってことでしょうか？  
「確かに、ヤンキースパワーですね。」

## 井川選手の変身、その真の理由は…



Photo by AFL0  
ユニフォーム姿でなければどこにでもいる「普通のお兄さん」

2001年に入団したジェイソン・ジアンビ (Jason Giambi) も、そうでした。長髪、ヒゲボーボーどころか、刺青はする、ネックレスはじゃらじゃら、とヘビメタ系の「ワルい」イメージで売っていたんですが、入団が決まった途端、ばつさと髪を切つて、スーツ着て現れましたからね。もう、180度のイメージ転換ですよ。こちらからは何も言わないのに「入団決定とともに、自発的に髪を

ばつさり切り、ヒゲを剃り、紳士仕様の服装に変えるヤンキースの選手たち。いったい、なぜでしょう？  
「ヤンキースだから(笑)。結局、そこですよ。地球でいちばん強い野球チーム」なので。報酬も、実績も、歴史も、＼地球一のヤンキース。だからお手本にならなきゃいけない、見本にならなきゃいけない、っていう空気が球団全体にあります。他球団にはないものですね」

髪を切れ、という非公式の指令や先輩からのプレッシャーは、ひょっとしたら、あったのかもしれない。しかし広岡氏のお話を聞くかぎり、エリートの一員になる、という自覚こそが服装や身だしなみをエレガントに変えていく…というふうにも解したくなる。

この場合のエリート意識とは、鼻持ちならない自意識のことではけつてない。年俸に対する責任感、ベープ・ルースやジョー・デイマジオなどの偉大な選手の歴史に連なることへの畏れ、そして地球上 (!) の

野球少年たちのお手本になるという強い意志。そんな、むしろちまちました自意識なんぞ邪魔にしかならない「ノブレス・オブリージュ」(高い地位にある者に伴う義務) にも通じる覚悟こそ、ここでいうエリート意識である。

### さ

て、井川選手変身の興奮も落ち着いた、今年1月17日。日本が誇る(?) 巨人軍は、スタッフ会議を開き、「私服を規制する方針」を定めた。ピアスやサンダル、穴開きジーンズなど「最新の」流行ファッションを禁止し、＼巨人軍は常に紳士たれ」の方針復活で、原監督も風紀委員と化すという。

穴開きジーンズなんて「最新」どころかとつくに終わつてるだろう、とツツコミたくなったことはさておき、この私服規制方針。オトナなヤンキースの「紳士育成の仕組み」を知つてしまうと、なんだか落ちぶれた名門男子校の悪あがきな校則強化みたいに聞こえる…。選手自らが「紳士でありたい。巨人軍だから」と心から思える球団に、早く立ち直るとよいですね。

エリート (Elite) の自覚が生まれるところ、エレガンス (Elegance) も育つ。この二つの言葉はたまたま、「注意深く、選ぶこと」という意味の同じ語源から派生しておりました。

### Kaori Nakano

服飾史家。今号より連載開始。UOMOが提唱するエレガンスを、毎回人物を切り口にしてわかりやすくひもときます。「ハーバース・バザー」「STORY」「翼の王国」「朝日新聞」「openers (ウェブマガジン)」「日本経済新聞」など連載多数。最新刊は「着るものがない！」(新報社)。